

30 代女性

●主訴

耳鳴り・突発性難聴

来院 10 日ほど前、夜間に突然左耳が聞こえなくなり、高音の耳鳴りを感じ始めた。病院を受診し、聴力低下を指摘され突発性難聴との診断を受けた。ステロイド剤や血流を改善する薬を処方されたが、1 週間服薬しても改善せず、鍼灸治療を求めてきた。

既往歴は花粉症・アトピーなどのアレルギー症状。

●症状所見

左耳が聞こえなくなる前、仕事が立て込み深夜までの残業が続くなど激務が続いた。発症後はテレワークに切り替え、病院を受診して服薬もしているが改善が見られない。左耳は高音の耳鳴りが続いており、音は感知していない。

●治療の内容と経過

1 診；足先が冷えているが全身発汗している。舌や脈状、発症までの過程から肝気の乱れと極度の疲労からくる腎虚からなる肝腎不交と考え、手足と背部のツボ(主に少陰経・厥陰経)に接触鍼(皮膚上に鍼を貼り付ける方法)を行った。また、左足先のツボから刺絡を行い、全身の血流改善を図り、後頸部と肩に刺鍼し肩周りの緊張を緩和した。

2 診；4 日後に来院。治療翌日から少し耳鳴りが小さくなり、膜が 1 枚取れたような、僅かに聞こえにくさの改善が感じられたとのこと。また漢方薬局で滋腎通耳湯と牛黄清心天を処方され服薬を始めた。

1 診同様、手足と背部のツボに接触鍼を行い、頭部ツボから刺絡した。頸肩には刺鍼した。

4 診；3 診以降は 1 週間毎に来院。治療後は 1 枚ずつ膜が取れるように聞こえにくさが変化している、耳鳴りも小さくなってきて、音も僅かに感じられる時もあるとのこと。舌の所見も改善が診られた。

漢方薬は滋腎通耳湯+香蘇散に変更された。

治療は前回までと同様に手足・背部に接触鍼をし、背部のツボに施灸した。

5 診；まだ膜が張っているような聞こえにくさは感じるが、耳鳴りは気にならない時間も出てきたとのこと。漢方薬は滋腎通耳湯+抑肝散加陳皮半夏に変更。

治療内容は前回同様で、背部への施灸を増やした。

6 診；漢方薬が変更されてから少し聞こえるようになってきたとのこと。耳鳴りも更に小さくなっている。治療は前回までと同様に手足・背部に接触鍼と、背部のツボに施灸した。

7 診；来院前に病院を受診、聴力検査でも回復が見られた様子で、音をとらえている実感が出てきた。治療は前回までと同様に接触鍼と、背部のツボへの施灸を増やした。

9 診；左耳の膜が張っている感じはまだあるが、自分の発声を感じ取れるときも出てきた。また、左耳の近くでは少し音が聞こえるようで、聞こえる音域が広がってきている実感がある。ここまで1週毎に来院。

10 診；2週後に来院。前回の治療後からテレビの音や人の話し声が僅かに聞こえてきている。治療は同様に手足・背部に接触鍼と、施灸を更に増やした。

●まとめ

初回来院時にお話を伺うと、それまでの激務とストレス、疲労などが引き金になった事が考えられました。発症当日も深夜まで残業しており、突然聴力の消失を感じ、耳鳴りがひどくなったとの事でした。直ぐに病院を受診し、1週間服薬しても改善する兆しがなく、鍼灸治療を求めて来られました。

問診所見での舌や脈状、手足末梢の冷えや全身の発汗などから、腎虚と肝陽上亢 肝鬱気滯を考えました。素体としての陽虚をベースに気の巡りが悪くなり、加えて日常のストレスなどから耳鳴りとして症状が発現したと考えられます。そこで全身の気の巡りを整えることと腎陽を補うことに主眼をおいて治療を進めました。全身の循環が改善されてきた結果、耳の症状は軽減し、睡眠状態も改善し、精神的にも落ち着いてこられたようです。

また、早期より漢方薬を併用していたことも奏功したと考えられます。

抑肝散陳皮半夏は疎肝薬・平肝薬・活血薬・理気薬・利湿薬で構成され、気・血・津液に働きかけて巡りを順調に保ち、気滯により瘀滞する陰血の巡りを回復させる作用があります。

滋腎通耳湯は清熱滋陰・疎肝発揚通竅作用により、身体の上方向へ正気を導き、上焦の熱は清熱します。

以上より、肝鬱気滯により生じた上焦の熱が清熱され、気血の巡りが改善し、さらに睡眠状況も改善が見られたことから、身体も滋養されてきた結果、少しずつ症状が緩和されてきたものと考えられます。

今後は左耳の症状のさらなる改善と、体調を安定させる事を目的に、治療間隔を延ばしながら治療を継続していく予定です。

【参考文献；金原出版株式会社「究めるキズ漢方大全」仙頭正四郎 著】